

# フランス国立人口研究所（INED）の訪問

フランス

2024年3月25日～30日

佐生航基、公共健康科学専修、4年

## 海外研修をしようと思った動機

人口学に関する卒業研究を行い、その分野の興味を深め、海外の人口研究所を訪問したいと思った。日本が低出生率や高齢化に直面しているように、それぞれの国で特徴的な問題があると考えられるため、海外における人口学研究について話を聞くことは意義深いと考えた。なかでもフランスは、先進諸国内では高い出生率を示していたり、移民の受け入れに積極的であったりと、人口学的に重要で面白い国であるため、今回の研修ではフランス国立人口研究所（Institut National d'Études Démographiques: INED）に訪問したいと考えた。

## 海外研修をどのように企画したか

フランスの人口動態はもともと少し知っており、対象の候補になっていた。海外の人口研究所を調べ、アメリカやドイツも候補に入れたが、指導教官への相談も通して、フランスを対象に決めた。卒業研究のテーマであった国際移動の研究をしているリサーチチームに焦点を当て、そこに属する研究者の方やPh.D.の学生にメールで連絡した。計画段階では「従業員の健康増進」という別のテーマについても考えていたため、それに関する論文を読んだり、話を聞きにいきたい企業を選定しメールを送ったりした（企業にアポを取ることができず、今回の研修は人口学に関係するもののみとなった）。学科からはメールのやり取りのサポートや意義深い研修となるよう助言をいただいた。また航空券やホテルは学科が押してくれた。

## 旅程

3月26日（火）	INEDでDr. Mathieu ICHOUと面談
3月27日（水）	INEDでPh.D.の学生と面談
3月28日（木）	国立移民史博物館の見学

## 訪問先や面談者の紹介

- INED
  - 1945年に設立され、14のリサーチユニットを持つ。
- Dr. Mathieu ICHOU
  - 国際移動のリサーチチームの主任の一人。
  - フランスにおける移民とその子孫に関する大規模な調査の共同責任者も務める。
- Ph.D.の学生
  - 同チームに所属する学生。家族移住に関する研究を行っている。学部時代は社会学と歴史を学んでいた。
- 国立移民史博物館
  - 17世紀から今日に至るまでの移民に関する資料やデータを展示している。



INED



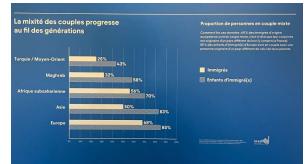
国立移民史博物館

## それぞれの訪問・面談で学んだこと

- Dr. Mathieu ICHOU
  - フランスにおける移民研究やご自身の研究、INEDの役割などについて話した。
  - 質の良いデータを取得することの重要性と必要性を改めて学んだ。
- Ph.D.の学生
  - これまでに受けた人口学教育やご自身の研究などの話をした。
  - 人口学が重視されている国であっても、基礎的な人口学の講義が広く行われているわけではないのかかもしれない。「人口学」ではなく「人口に関する事象」を多角的に学ぶことが重要だと考えた。
- 国立移民史博物館
  - 移民の歴史だけでなく、今日の移民事情に関する展示でINEDの新しい研究結果が示されていたことからも、フランスにおける移民が、研究者だけでなく一般市民にとって重要な考え方を学んだ。



お会いしたPh.D.の学生

博物館に展示されていた  
INEDの研究結果

## 研修全体を通して学んだこと

お会いしたPh.D.の学生から他の方を紹介してもらい、2名の方と帰国後にメールでやり取りができた。1名は人口学、1名は工学の背景を持つ方で、その方々を含め、人口学研究携わる方の多様さを学んだ。また博物館に小学生が校外学習で来ていたことや、フランスに住む人に「ニュースで少子化の話題を聞くことはない」と教えてもらったことから、フランスで生きる者にとっては移民が最も身近な人口学的事象だと感じ、日本との違いを学べた。

## 感想

特に何の問題もなく海外で過ごせた経験は、これからの自分の選択肢を増やしてくれると思った。訪問先での学びだけでなく、ただ街を歩いているだけでも気づきがあるので、海外に行く意味を大いに感じた。応募段階では大変なこともあったが、挑戦して良かった。

## 反省点

卒業論文の発表を終えてから取り組み始め、時間がないという状況だったが、精神的・身体的な疲弊がなかなか取れず、スムーズに計画書を書き進められなかった。その結果当初の予定より遅れてしまい、十分な準備時間を確保できず、希望通りのアポが取れなかつたため、理想よりも縮小した形での研修となってしまった。また3年生のときはこの研修を諦めたが、年度に1回使えるのだから挑戦すれば良かったと思う。

## 後輩へのメッセージ

テーマがはっきりと決まっていない人にとってはかなり重く見えると思うが、先生が多大なサポートをしてくれるの、まずは漠然とした思いのまま相談に行ってみることをお勧めします。挑戦者が多いと支え合いやすいと思うので、「海外行こうぜ！」って巻き込んでいくと良いかもしれません。4年生で行く場合は、卒論と並行して早めに進めると良いと思います。がんばれ！！